

C級審判員の目標

C級審判員は、公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は、各都道府県の代表チームの対戦であり、また全国大会の予選会である場合がほとんどである。

そのような公式試合を担当するためには、競技規則に則って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を十分理解し、実践することが求められる。

以下にC級審判員が十分理解し、実践すべき事項について記載する。

<大会への参加>

- 1) 審判会議、代表者会議に出席し、その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。出席にあたっては、ブレザー・ネクタイを着用する。（本協会制定のものを推奨する）
- 2) 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり、他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆、チーム関係者に見られていることを忘れない。

<試合開始前>

- 3) トスには指定された時間に両レフェリー・TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうかを確認する。
- 4) ユニホームの確認をTDと共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服装についても助言する。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと。（得点、罰則、時間の管理について）

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両ベンチ役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○得点の管理 時間の管理

- 10) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。
GRへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

○判定の手順 ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように。

○役割分担

- 15) コートレフェリーは、7mスローを判定しない。
- 16) コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入(ラインクロス)を判定しない。

○競技規則の正しい運用

- 17) 退場を判定するときは、必ずタイムアウトを取る。
- 18) 指し違えたときは、必ずタイムアウトをとり2人で協議する。

<試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶(両ベンチ役員・オフィシャル)をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。